

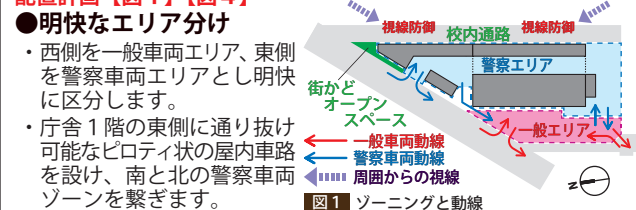
「警察機能を発揮させる機能的な施設づくり」、「万全な防災対策による安全な施設づくり」及び「周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり」についての提案

38.8cm×7.7cm=298.76 cm



テーマ1 警察機能を発揮させる機能的な施設づくり

配置計画【図1】【図4】 マンションからの視線 校舎からの視線



- 明快なエリア分け
 - 西側を一般車両エリア、東側を警察車両エリアとし明快に区分します。
 - 庁舎1階の東側に通り抜け可能なピロティ状の屋内車路を設け、南と北の警察車両ゾーンを繋ぎます。
- 早期現場臨場のための配慮
 - 警察車両出入口：緊急出動のための車両の出入口2カ所+非常用(玄関前)1カ所を確保します。
 - 警察車両乗込ルート：職員出入口から車庫・装備倉庫を近接、多数を屋根付きで雨の日でも濡れずに乗り込み可能とします。
 - 警察車両駐車スペース：駐車スペースは並列配置でゆとりある間隔とします。

平面計画【図5】

- フレキシブルな室配置を可能とするつくり
 - 敷地形状から南北方向を長手とする建物形状とし、コア(階段・EV)を建物中央の長手方向に横並びで設置します。【図2】
 - 廊下をフレキシブルに設ける事ができるため課の規模や用途に応じて変更が可能となり、今後の要望や将来変更について柔軟に対応できます。
 - 最小限の共用部となりコンパクトなプランが可能です。
 - 同一階に護送E.V直結の取調室が必要な2課が設置可能です。
- 一般利用者頻度と秘匿性に応じた階構成とします。【図3】

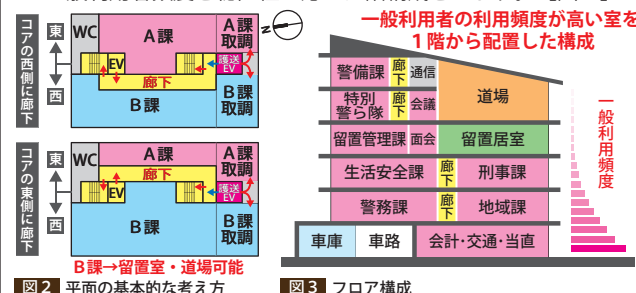


図2 平面の基本的な考え方 図3 フロア構成

動線計画【図4】

- 利用者毎の細やかな配慮
 - 一般住民動線：幹線道路からわかりやすい位置に玄関を設け、1階にひと目でわかる総合案内、一般住民対応窓口を集約、ロビー正面に来客用E.Vや階段を設け誘導します。
 - 職員動線：館内出入口は警察車両駐車場に近い位置で、一般の方から目につきにくい屋内車路側に設置します。
 - 被疑者・護送者動線：一般の方には目に触れない護送専用スペースから護送用E.Vを経由して取調室や留置スペースに直結する計画とします。(護送専用スペースは前後シャッターで両方向から前進寄付できし事故防止に配慮)
 - 被害者動線：被害者相談室へは執務室を通らず目につきにくいルートを確認します。
 - 面会人動線：留置関連は専用階として一般の方は面会人のみの利用階とし、必要最小限の窓でプライバシーに配慮します。

テーマ2 万全な防災対策による安全な施設づくり

運用計画

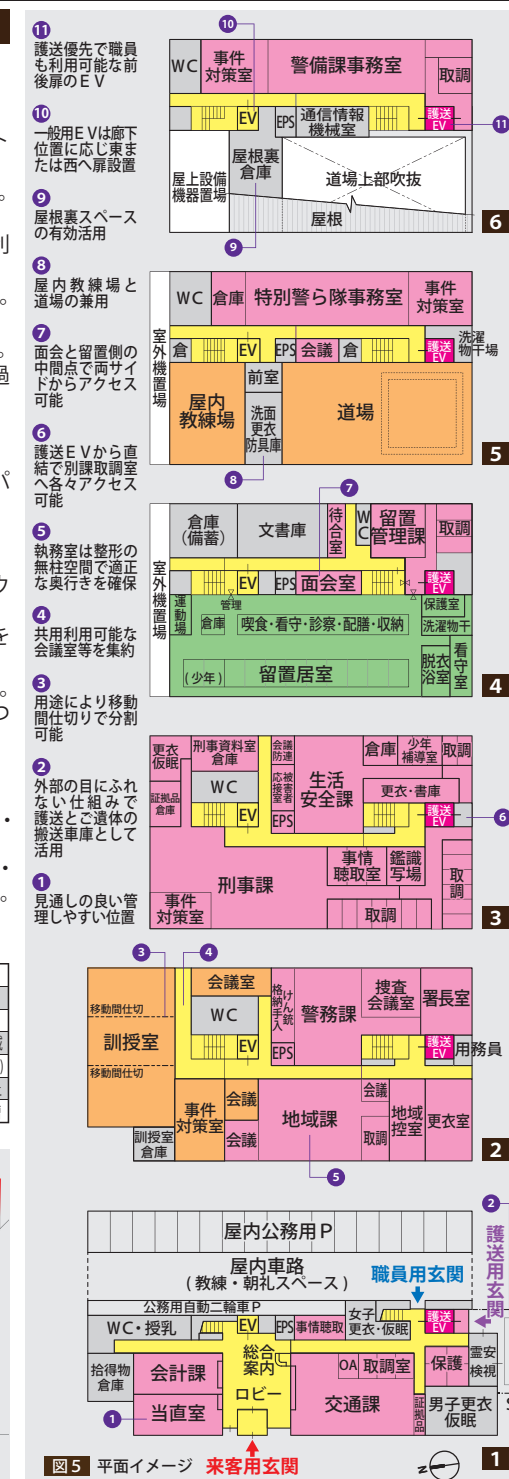
- フルタイム運用や秘匿性の高い特性に対応したつくり
 - 時間外エリアに対応したセキュリティーや個別空調の対応とします。
 - 執務室などを経由せずに屋外機器のメンテナンスが可能なルートとメンテ作業限定エリアを設けます。
 - 使いながらの更新が可能な設備配管のリプレーススペースを確保します。
 - 死角をつくらない、見通しのよい空間づくりとします。
 - 階段は2方向避難用として屋内に2箇所設け、一般利用と職員利用のゾーン分けに配慮します。
 - 当直室は外部の見通しがよい玄関及び道路に近い1階に設置します。
 - 被留置者関連室は外開きを基本とし、閉じこもりを防止します。
 - 留置の看守台を高くしたり遮蔽板の設置を検討し、秘匿化に配慮します。
 - 警察車両エリアの出入口は監視カメラとあわせてセンサーで通過を知らせる仕組みを検討します。
- 機能面の配慮
 - 道場や屋内教練場の下階への振動防止を図ります。
 - 女性職員の働きやすい環境を整備します。(休憩室、宿直室、パウダースペース等)
 - 保護室からの騒音対応、掃除や換気がしやすいつくりとします。
 - 霊安室は護送車庫に併設し外部の目に触れないよう配慮します。
 - シャッターの閉閉は利用目的を考慮しつつ極力手動対応可能とします。
 - 外構は警察利用エリアとなる囲いの管理区画と浸水対応の区画を兼用できるつくりとします。
 - シャッターの開閉は利用目的を考慮しつつ極力手動対応可能とします。
 - 護送用E.Vはストレッチャータイプで、護送を優先管理としつつ前後扉により職員の通常利用も可能とし利便性を向上します。

ユニバーサル計画

- あらゆる利用者の視点に立ったユニバーサルデザイン
 - 利用する全ての人(障害のある方・高齢者・家族連れ・子ども・外国人・初利用者・弁護士・職員など)の、いろいろな利用場所や利用状況【トイレ・駐車場・垂直水平移動・案内サイン・プラン・内装仕上・色彩・授乳・自販機・家具備品】を想定し、安心して利用できる施設を目指します。

ライフサイクルコスト計画

- コスト面を考慮しつつ利便性が高い運用が可能につくり
 - ライフサイクルコストを低減する仕組みで警察機能の助けとなり、エコロジーに配慮した機能を取り入れます。



テーマ3 周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり

自然災害に耐える強靱な庁舎

- 自然災害に耐える強靱な庁舎
 - 耐震性II類を最低基準とした地震に強い庁舎で風水害時にも耐える機能性を備えた庁舎とします。

災害時柔軟に機能転換できる庁舎

- 災害時柔軟に機能転換できる庁舎
 - 2階の訓授室、会議室は情報端末を多数接続できる環境を整備し、災害対策室として転用します。
 - 道場は広域緊急援助隊の詰所として活用します。
 - 1階ロビーは電源や情報回線を設置し、緊急救助隊等の待合せや待機場所として活用します。

一般駐車場の災害活動拠点化

- 一般駐車場の災害活動拠点化
 - 一般車両駐車場は吹き出し等の作業可能な大屋根の玄関庇やマンホールトイレを設け、一時避難や災害活動拠点として活用します。

エコと両立した事業継続(BCP)可能な庁舎

- エコと両立した事業継続(BCP)可能な庁舎
 - エコロジーとエコノミーに配慮しながら、機能低下の最小限化及び維持化 □電力・通信の多重化 □給排水空調の多重化 □業務継続の機能維持化を図ります。【図7】

自然そして歴史をつなぐ軸線に相應しい佇まい

- 自然そして歴史をつなぐ軸線に相應しい佇まい
 - 当敷地は瀬戸内海・旧広島陸軍被服支廠・比治山を結ぶ軸線上に位置しており、自然環境と歴史的背景をつなぐ庁舎を計画します。【パース1】【図8】
 - 旧広島陸軍被服支廠と調和するデザインを取り入れることで、原体験を継承し平和への願いの架け橋となると共に、街並みの一体化で住民の方に親しまれる姿を目指します。【パース1~4】
 - 西面のウェーブ緑化は南区のエリアを形成する京橋川、猿猴川、瀬戸内海の3つの水面の波と比治山の緑の連動をイメージ喚起させる計画とします。【パース2】【図9】
 - 地域で育った県産材を積極的に活用し、温かみのある庁舎とします。【パース5】

圧迫感の軽減

- 圧迫感の軽減
 - 勾配屋根によりボリュームを低減させ、壁の一部をレンガ調とすることで周辺環境と調和し、警察署の持つ威圧感を和らげる計画とします。【パース1】
 - レンガ色と金属色のコンビネーションで、あたかも以前から馴染んでいるようなイメージと未来に向かう現代的なイメージをバランスよくミックスします。【パース1~4】
 - 敷地の形状及び広さから幹線道路境界ライン付近まで建物が高くなるため、歩道に近い部分は2階建てとし圧迫感の軽減を図ります。【図10】

近隣に対する細やかな配慮

- 近隣に対する細やかな配慮
 - 校内通路側は、庁舎の窓から溢れる行灯のような灯りなどで高校生の安全を見守るやさしい光とします。【パース3】
 - 敷地北側の一角と歩道沿いを街かどオープンスペースとして近隣住民の憩い及び情報発信の場として利用します。【パース4】

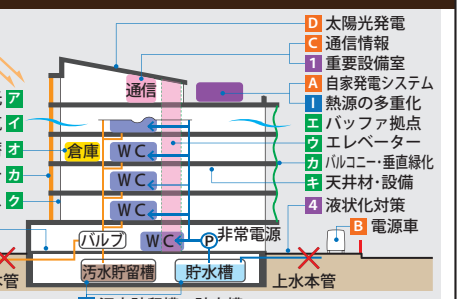
面積表

計	本体		別棟		合計
	警察署	駐車場関連	計	合計	
計	約5,700㎡	約750㎡	約6,450㎡	約3,700㎡	約10,150㎡
			車庫・屋内車路関連計	約1,120㎡	

概算工事費

庁舎棟 (RC造6建)	概算 総工事費 (税抜き)
庁舎棟 建築工事費	1,649,000千円
設備工事費	767,000千円
車庫棟 (S造平屋建)	52,000千円
外構 (駐輪場を含む)	32,000千円
合計	2,500,000千円

構造モデルイメージ



事業継続(BCP)可能な庁舎

機能低下の最小限化及び維持化	業務継続の機能維持化
1 重要設備室 上階に設け浸水による被害防止	7 自然採光 執務環境に極力自然採光を確保
2 1階床高さ 地盤面+0.5mとして浸水の軽減	8 自然換気 適切に自然換気が行える計画
3 補強と防水板 庁舎・警察エリアの浸水防止	9 エレベーター 非常電源付 物量搬送のため大型化
4 液状化対策 警察車両エリアの液状化対策	10 バッファ拠点 本部が被災した時の代替機能確保
5 電力・通信の多重化 自家発電システム 燃料備蓄7日分	11 資機材 非常時に備え資機材庫、備蓄倉庫
6 通信情報 多通信 多通信	12 ハルコニー 窓ガラスの落下防止、飛来物・視線制御、熱負荷低減
7 太陽光発電 携帯電話充電等の直流電力供給	13 天井材・設備 落下転倒防止
8 給排水空調の多重化 熱源の多重化 ガスと電気の併用とし、リスク軽減	14 ガラス 大型ガラス選別、破損時の納期費用軽減
9 汚水貯留槽 貯水槽 上下水道使用不可の時トイレ利用可能	15 非常電源 非常時に備え非常電源付ポンプで供給

図7 事業継続(BCP)可能な庁舎

建物と歩道の関係

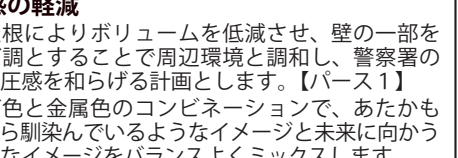


図8 南区付近(現在と戦時中の重ね)

図9 ウェーブ緑化イメージ

図10 建物と歩道の関係